



善正寺だより

掲示板法話

「いのちより大切なもの」が伝われば

寒さの中に温かさが実感される



寒い冬の季節に、「タイガーマスク」のプレゼント運動は心温まる話題です。ある日、「チヨイボラ」すなわち、ちよいと気軽にボランティアという流行語を知りました。マザー・テレサの活動した施設で数日のボランティアを行った女性には「あの施設の人々のためというよりこちらのほうが喜びをもらいました」と感動を表現しました。理髪店を営む父親が休日福祉施設で理髪ボランティアを続けていた。父親の背中を見て育った息子さんも思い立って施設に出向いた。そこで、「お年寄りから却って感謝と喜びをもらいました」といふ。

これらの行いは仏教の言葉で言えば、布施行です。布施はインドの古い言葉の「ダーナ」で、漢字で表現すると「旦那」です。旦那さんとは本来的には、「施しの心を忘れない人」という意味だったのです。毎年、仏教婦人会が二月の第二日曜日を「ダーナの日」と定めて「ダーナ募金」を福祉施設に寄付する運動を続けてくださっています。

しかし、更に我々仏教徒が伝えたい大切なものがあります。

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

星野富弘さんと言えば、口に絵筆をくわえて美しい詩や絵を描く詩人として有名です。大学卒業後三カ月にして頸椎損傷の身となったこの人を支える秘話があります。昭和二十年三月十日の東京大空襲の夜、星野さんの母が指定された避難所の小学校に避難したとき、防空壕は人だかりで、既に火災が発生していた。その時、堀江さんと言う人が「こんな所にはダメです。私についてきて」と手を引いて火の手と逆の方向に逃げた、という。翌朝、その小学校には犠牲者があふれていた。その翌年、星野さんは疎開先の埼玉県で生まれたことを母親から聞かされた。

「いのちが大切だと思っていたとき、生きていくのが苦しかった。いのちより大切なものがあると知ったとき、生きていくのが嬉しくなった」という、輝くような言葉を残す星野さんを支えたもの。それは母から聞かされた慈愛の言葉です。「いのちより大切なものこそ、温かい言葉とともに伝えなければならぬ」と思っています。

☆行事ご案内☆

☆2月の門信徒会例会

2月20日(日) 夜7時半

- ①「宗祖讃仰作法・音楽法要」の練習
- ②長男結婚披露宴(夜の部)の進行:役割・打ち合わせ等
(米村龍治作詞「娘たちよ」の味わいと練習)

♪三重組コーラス♪ 会場西勝寺様で午後1時半、三重組主導で新指導者体制 2/7(月)花月先生、3/7(月)

◇キッズサンガ

毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK鈴ガム付。年中無休
2月、3月の毎月の集いは諸行事の都合でお休み、夕方の鐘を撞きに來てね!

ご案内☆「永代経」講師石川欣也先生(奈良)

3/5(土)午後1時半、夜7時半、6(日)午後1時半

◇3/20(日)夜7時 三全仏教婦人会総会(善正寺本堂)

◇一線会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評
長男もブログに参加、3万7千回アクセス達成!毎日60~70の訪問に感謝!HPからのメール、悩み相談など大歓迎!

4/3仏前結婚式(10時半)、夕方5時半本堂で門信徒向け披露宴「娘達よ」唱和、ご参加の出欠締め切りは2月末。

- 平成23年度善正寺主な行事予定
- ※3/5(土)6(日)「永代経」(石川欣也先生)
 - ※3/20(日)夜、三全仏婦総会
 - ※4/3(日)長男潤爾結婚式
 - ※5/22(日)総会(午前)・公開法座(午後)(藤大慶先生)
 - ※8/20(土)午後・夜21(日)午後「永代経」(足利孝之先生)
 - ※9/18(日)午前・午後・小杉仏教会主催「追悼法要」(貴島信行先生)
 - ※10/15(土)親鸞聖人750回大遠忌法要バス参拝(50名)
 - ※12/3(土)夜お内仏報恩講
- ☆毎月の例会は原則として第3日曜の夜7時半



2011.1.1元旦会、家族揃って正信偈、80人が声高らかに

坊守スケッチ

「パワースポット寺」と呼ばれたい



ある受験生が「伊勢参りに行ってきた」と言った。「合格祈願？」と聞くと「パワーがもらえる石に触ってきた」と言う。まさか本人もそれで合格できるとは思っていないが、それで気持ちが落ち着くのなら仕方ない。今や全国的にパワースポットブーム。従来は「聖地」や「霊場」と呼ばれていた。自然崇拜や山岳信仰の場所、大きな岩や湧き水、滝などがその対象だった。三重県の熊野詣などもその類である。しかし現在では旅気分を訪れる人が多い。うつ向き、内向き、後ろ向きの若者が多く、藁をもつかむ気持ちで、その場所を訪れるのだろう。「就活」や「婚活」という言葉が流行る時代、自分の努力だけではどうにもならない壁が、前途に立ちはだかっている。他人と絆を結びにくい人が、ただ単にそこへ行くだけで、自分の願いが叶い、パワーがもらえらると思つたら大間違い。そうは問屋が卸さない。そもそも『パワースポット』とは、どんなはたらきがあるのか調べてみた。「心身を癒す精神的なエネルギーに満ちた聖地。見えないパワーに包まれて心の迷いを吹き飛ばし、清々しい気持ちになつて、新しい自分に出会える場所」と書いてあった。簡単に言えば、心と体の汚れが浄化され、エネルギー

が充電されて《元気が出る場所》のこと。よく考えると、これはお寺《本来の使命》ではないだろうか？ 以前ご本山の坊守の会合で「あなたは何と呼ばれたいか？」という話し合いがあった。「お寺の奥さん」「坊守さん」「(名前で)さん」どれがいいか？ 私に発言の番が回ってきた時「どの呼び方でも構わない。要は中身の問題。あえて言うならば《元気が出るお寺の奥さん》と呼ばれたい」と答えた。世間では建物の大小、檀家数の多少で「大きい寺」「小さい寺」と呼ぶが、私は「元気な寺」いや、今流行の「パワースポット寺」と呼ばれたいと思う。「お寺の本堂に座ると、なぜか心が落ち着く」、「お説教を聞くと自分の殻が破られて新しい自分が発見できる」、「一緒に参りする人たちの明るい笑顔に出会って温もりがもらえる」、「山門を出るときには清々しい気持ちになつて帰れる」、そのように言ってもらえるお寺でありたいと思う。夕方五時の鐘をつきに来る子供達が、誰かが思い切り「ゴーン」と撞くと、その鳴り響く鐘に触って「パワーをもらった！」と一様に騒いでいる。何故子供達が「パワーをもらった」と言うのか分からなかったが、最近になってテレビがこのブームの火付け役

になつてきているのだと理解した。そのブームの火は、いつかは消えるものだが、その中身の教えは、親鸞聖人が亡くなられて七百五十年、ずっと守り伝えられてきたものだと思信している。

☆寄稿

四日市市川崎孝一

☆菩提所の 書院の庭に 何碾きし 扁平曰は 蘇履い初む

☆親の親 先祖代々 尋ねるに 倍倍ゲーム ごと脈脈と

☆ほんどうに ぬくもりめぐる ほんこさん おてつないで 『ゆうやけこやけ』

☆霜柱 さくさく踏めば 童心に 美濃路の古墳 訪う道すがら

☆ニューイヤの 幕開けは ビンゴで孫達 ウサギ顔

☆四日市市 釈 恩厚

☆嫁の声 若き自分の 夏の朝

☆嫁嫌い じゃないけど すぐ怒る

☆大寒日 嫁して四十七年 皆ラッキー

☆四日市市 A・O

☆温めるも冷ますも息や 日々の冬

☆三重組コーラス♪

☆西勝寺様で午後1時半2/7(月)花月先生指導3/7(月)新指導者で練習

☆カンパ有難う☆

片山たか子様・松岡愛子様・澤田美智江様・大林ゆきの様・本田和子様・岡本紘輔様・柴田美津代様・藤井義明様・HM様・匿名様よりお志・切手有難うございました。

☆ホットニュース☆

☆10/15(土)京都西本願寺バス団体参拝(音楽法要・50名、8千円)募集を開始！定員になり次第締め切りますのでお早めにお申し込み下さい。

☆4/3夕方本堂での長男結婚披露宴の出欠表締め切りは2月末ですが、準備の都合上お早めに提出下さい。その日「娘達よ」の歌を全員で唱和。

☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。長男も若い感覚でブログ投稿。開設2年6か月で3万7千回。平均一日70ヒット！

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発売中！挿絵は門徒の服部雅之氏(定価1260円を著書割引千円で特別販売)

☆編集子より☆

「善正寺だより」第二〇六号をお届けします。◇「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」の善正寺団体参拝は既報のように、「十月十五日(土)午後の法要」で、参加費は八千円です。別紙にて参加者を募集します。バスの定員が参加数の限度ですので、早めに申し込んでください。

◇五木寛之さんの「親鸞」(激動編)が中日新聞で新年から連載がスタート。共々ご愛読致しましょう。◇長男の挙式日が近づき、何かと気ぜわしい日常になりつつあります。今は亡き両親の往時を思い出す日々でもあります。◇寒さ厳しい昨今、うがい、換気、手洗いのUKTに心がけ春を待ちましょう。

親鸞聖人ご命日の朝、全国的に寒波が到来し、当地方でも大雪が降りました。報恩講最終日の早朝、雪かきをし
て、雪国の人々の苦勞を体験しました。我が家の車は雪対策が
してないので慌ててスタッドレスタイヤを探し回りましたが、
売り切れ、急な用事が入ったらどうしようかと不安でした。
備えあれば憂いなしだと反省しました。折り返し、今年は
阪神大震災から16年目、仏教でいう14回忌の節目の
年です。「災害は忘れた頃にやってくる」を再び肝に銘じた
と思います。防災の基本は「自助」「共助」「公助」だ
そうです。先ず自分でできる備えはしっかりと、次に隣近
所の助け合いの絆を壊さず、最後は社会的救済体制を
待つことです。報恩講のお非時作りに来て下さった女性達
が、「昔は冠婚葬祭には皆が集って大勢の食事作りをし
たわね、今は協力し合う訓練がしてないから、まさかの時は
どうするのかしら？」お寺の食事作りが最後の砦とし
て大事にしたいわね」という話が出ました。お寺の活動
が人と人との繋ぎ、役目を果たすならば本当に有難いこ
とです。「時代の流れだから」という口実で、簡素化や楽
な方向に流されがちですが、今できる人達が協力し合え
れば、その心は次の代にもきっと受け継がれる筈です。
皆が安心して暮らせる地域作りの為に、共に汗を流しましょ
う。報恩講夜の席で歌った「娘たちよ」を、各々の文芸部披
露会で全員合唱します。よろしくご協力下さい。イン
フルエンスが大流行の兆し、くれぐれもご自愛下さい。合掌
平成二十三年二月 善正寺坊守輝